

2019年度 事業報告書

自 2019 年 4 月 1 日

至 2020 年 3 月 31 日

2019 年度 5 つのトピックス

1. 「2019 年度～2021 年度中期計画」を策定し、5 つの重点方針に沿って、活動を行いました。同時に「DEAR の SDGs に対する基本方針」も策定しました。
2. 教材『気候変動』作成のための費用をクラウドファンディングで集め、160 名の方から、約 80 万円を集めることができました。教材も無事に発行することができました。
3. 多くの人にアクセスしやすいようにウェブサイトのリニューアルするとともに、全国の開発教育の実践を紹介するウェブサイト「DEAR プラットフォーム」を開設しました。
4. d-lab2019（第 37 回全研）は JICA 地球ひろばで開催！全体会は「わたしたちが、社会を変えるチカラになる」をテーマに行い、計 301 名が参加しました。
5. 教材『ワークショップ版世界がもし 100 人の村だったら 第 6 版』を発行しました。また、『持続可能な地域づくりのための「学びあい」ハンドブック』、『NGO のための教材づくりアイデアブック』を発行しました。



認定NPO法人 開発教育協会 (DEAR)

もくじ

事業の概要

1. はじめに～2019 年度をふりかえって	2
2. 各種事業報告	
Ⅰ. ネットワーク事業	3
Ⅱ. 実践・研究事業	4
Ⅲ. 情報・出版事業	5
Ⅳ. 人材育成事業	6
Ⅴ. 政策提言事業	7
Ⅵ. その他の事業	8
3. 組織運営に関する報告	
1. 会報「DEAR ニュース」の編集・発行	9
2. サポーターの募集	10
3. クラウドファンディングの実施	10



新教材『気候変動』を発行しました

処務の概要

1. 会員に関する事項	11
2. 役員に関する事項	11
3. 会員総会に関する事項	12
4. 理事会に関する事項	12
5. 評議員会に関する事項	12
6. 2019 年度事業評価・2020 年度計画会議	12
7. 各種委員会に関する事項	12
8. プロジェクト・チームに関する事項	13
9. 職員に関する事項	13
10. インターン・ボランティアに関する事項	13
11. 会員団体に関する事項	13



d-lab（ディー・ラボ）は市ヶ谷で開催

資料編

資料 1. 出版・編集・取材協力など	14
資料 2. 名義後援・協力の実績一覧	15
資料 3. 他団体への賛同・協賛の実績一覧	15
資料 4. 講師派遣の実績一覧	16



釜山デモクラシーフォーラムで分科会を実施

1. はじめに ～ 2019年度をふりかえって

社会の大きな動きの中で

世界には、貧困や格差、紛争や戦争、人権侵害などの課題が山積し、気候変動の深刻な影響は、もっとも脆弱な人々の命を脅かしています。

国内においても、経済格差や不平等は拡がり、子どもの貧困や教育格差の問題も深刻になっています。

また、2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響は地球規模で蔓延し、私たちの生活を脅かしています。感染症がグローバルに広がる背景には、加速化する人や物の移動、経済活動による熱帯林の破壊や、エネルギーの大量消費による開発や環境の問題があるといわれます。そしてここでも、もっとも社会的に弱い立場に置かれている人たちが大きな影響を受けています。

COVID-19 への対応が、包摂性や寛容ではなく分断や差別、排除につながる危険性が指摘されています。COVID-19 が今のグローバル社会に警鐘を鳴らしているのは明らかです。であるとしたら、開発教育はどのような役割を果たす必要があるのでしょうか。

持続可能な開発目標 (SDGs) が目指す「誰一人取り残さない」状況をつくるためには、人権や民主主義、共生や公正を重要な価値として中心に据えた、よりサステナブルな社会づくりをしていく必要があります。SDGs 達成までの期限があと 10 年と迫る中、私たちは、ポストコロナの社会をも見据えて、今までの経済や社会の構造や教育のあり方自体を見直していかなければいけないのではないのでしょうか。

昨年から世界に広がった気候正義を求める活動のように、世界各国で若者が動き出していることは注目に値します。一人ひとりが公正で持続可能な社会をつくるために学び、変化を起こす主体となるよう、開発教育の学びは益々重要になっています。

中期計画の実施

昨年度策定した「2019～2021 年度中期計画」最初の 1 年となりました。DEAR の中期的な取り組みとして重要な 5 つの方針を策定しました。

<2019-2021 中期重点方針>

1. 開発教育の実践者を支援し、かつ増やします
2. 2030 アジェンダ/SDGs を深く理解し、持続可能な社会を実現するための学習を推進します
3. 地域の開発課題に向きあい、持続可能な地域づくりのための教育を支援します
4. 教育政策に関する提言を行います
5. 組織基盤の強化をはかります

重点方針1では、様々な教育現場において、より公正で持続可能な社会をつくるための教育活動に継続的に取り組む実践者を増やしていくことを目指しています。そのために、教材作成の3か年計画を協議・策定し、今後の見通しを立てることができました。また、当初予定していたファシリテーター養成講座については、まずは、「開発教育ファシリテーション」について知見を共有し論点を整理することが重要であるという議論になり、研究会を設置することが決まりました。また、d-lab (開発教育全国研究集会) では、実行委員を増やし、新しい分科会が実現できました。さらに、次年度の d-lab2020 (沖縄) の準備を沖縄 NGO センター (ONC) と沖縄の実行委員会とともにすすめることができました。

重点方針2では、SDGs の背景や本質を深く理解するための学習ツールや出版物を作成し、学びを進めていくことを目指しています。そのために、「SDGs 研究会」を立ち上げ、会員へのアンケートを通して、DEAR の SDGs への取り組みの方向性を明らかにしたり、DEAR の教材をベースに、SDGs をテーマにしたカリキュラムの作成について協議をすることができました。

重点方針3については、地域づくりのための教育活動を支援することを目指しています。学びあいフォーラムの経験から作成した『持続可能な地域づくりのための「学びあい」ハンドブック』を用いた入門セミナーを開催し、全国から参加者が集いました。その後、個別の団体へのフォローアップも行い、地域づくりにおける学びあいの実践を支援することができました。

重点方針4では、ESD や SDG4.7 を中心とした政策提言活動をすすめることを目指しています。G20 のための C20 の機会や、SDGs 実施指針の改定、ESD 国内実施計画の改定など様々な機会を活用し、

他団体とも協力して、教育政策への提案を行いました。

重点方針5については、財政基盤の安定を目指しています。新教材「気候変動」作成のための資金をクラウドファンディングで募集し、約 80 万円を集めることができました。そのほか、新しい財源確保のための協議を進めることができました。

参加を重視した事業運営

また、年度当初に計画した 6 つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 実践・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 人材育成事業」「Ⅴ. 政策提言事業」「Ⅵ. その他の事業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。

参加を重視するという点では、ウェブにもアップしている『「みんなの参加」のための DEAR の取組』にもあるように、あらゆる人々が安心して参加するための学びの場づくりをすすめています。

具体的には講座やセミナーにおいて難聴者のための要約筆記や視覚障害の方のためのガイドヘルプ、小さなお子さんをお連れの方に、託児を導入しています。また、視覚障害を持つ会員には、会報や機関誌のテキストを毎回データで送付しています。このような取組を広く伝え、他団体へも伝えていきたいと思えます。

尚、各事業にかかわったメンバーについては、p.12～13をご覧ください。

2. 各種事業報告

Ⅰ. ネットワーク事業

ネットワーク事業は、国内外の開発教育及びESD関係者と実践経験を共有し、開発教育の普及、深化をはかることを目的としている。今年度は、「地域・学びあい・入門セミナー」などを実施し、担い手との連携・強化を図った。

1)国内ネットワーク事業

地域の開発教育の担い手とのネットワーク維持・強化につとめた。

具体的には、2017年度までに実施した「学びあいフォーラム」の経験を活かし、持続可能な地域づくりのための学びあいをコーディネートする際に参考となるハンドブックを作成・配付。またハンドブックを活用した集合研修を実施し、地域を持続可能な開発の視

点でとらえなおし、活動のありかたをふりかえった。

①『持続可能な地域づくりのための「学びあい」ハンドブック～コーディネートとそのふりかえり』

<概要>

発行:開発教育協会

発行日:2019年9月14日

体裁:A4判94ページ



②「地域・学びあい・入門セミナー～地域活動をふりかえり、学びあい、深め合う2日間～」開催

<概要>

日程:2019年9月14日(土)～15日(日)

会場:JICA 東京

参加者数:32名・(関係者を含む)

参加団体数:14団体

助成:地球環境基金



③ コーディネーター会議の開催(全5回)

年間および次年度計画の検討・確認、ハンドブックの編集方針の確認、研修内容や参加対象者および役割の検討・確認、各チームからの進捗共有・タスク確認を行った。

④ 各チーム会議の開催(全16回)

ハンドブック作成・編集、研修プログラム検討・開発、研修実施後の参加団体に対するフォローアップ・訪問、研修参加団体による地域での活動報告のためのブログ作成依頼・掲載を、チームに分かれて行った。

2)海外ネットワーク事業

①ASPBAEの団体会員との交流

DEAR が団体会員になっているアジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE/アスベ)と情報共有と経験共有を行った。また、ASPBAEのニュースレターに中村事務局長が日本のSDG4.7の取組

みについて寄稿した。

タイトル: *Promoting SDG4.7 to the next level in Japan*

掲載誌: “ASPBAE Ed-line” June, 2019

ウェブ:

http://www.aspbae.org/userfiles/july2019/Ed-lines_June2019.pdf

②Bridge47への参加

伊藤容子職員が、Bridge47主催の以下の研修会に参加した。各国のGCE等実践団体との実践共有や、研修を通じた比較的長期にわたる経験共有により、実践への還元につながるネットワークの構築につながった。

＜International Civil Society Week (ICSW)＞

日時: 2019年4月8日～12日

場所: ベオグラード、セルビア

＜Transformative Learning Journey (全3回)＞

日時: 2019年10月～2020年5月 (3回目の実施は未定)

場所: ベルリン、ドイツ

③釜山デモクラシーフォーラムへの参加

アジア開発同盟(ADA)などが主催する「釜山デモクラシーフォーラム」に近藤牧子理事、松倉紗野香理事、中村絵乃事務局長が参加し、全体会や分科会で発言した。日本における開発教育やESDの動向を説明し、参加者とはSDG4.7やESDについてSDG16を基礎として進める必要性を協議した。その後、報告会を以下のように開催した。

＜2019 釜山デモクラシーフォーラム＞

日程: 2019年10月14日～16日

会場: 韓国、釜山

テーマ: 「平和で公正で包摂的な社会のための変革を目指したグローバルシティズンシップ教育～SDG4.7とSDG16の役割」

参加者: 150名

＜釜山デモクラシーフォーラム報告会＞

日程: 2019年12月13日(金)19:00～21:00

場所: 聖心グローバルプラザ BE*hive

参加者: 10名

II. 実践・研究事業

開発教育の研究実践活動の質的な深化や向上に

向けて、関連する教育的課題や今日的課題などに関する調査研究活動を行った。機関誌は「教育の画一性を問う」をテーマに特集を組んだ。

1)「開発教育研究会」

①「SDGsと開発教育研究」部会

中期重点方針2にもあるように、SDGsの背景や本質を理解したカリキュラムやツールの作成を目指して本研究会を立ち上げた。「開発教育 Q&A」の改定やSDGsに関するアンケートの実施、d-labの分科会の実施などを通して、SDGsが目指している方向性(公正、共生、循環)を明らかにした。来年度は「SDGs学び方・教え方ハンドブック」の作成・完成をめざす。

＜「開発教育ってなあに? ～開発教育 Q&A」改定版の作成＞

作成者: 近藤牧子、田中治彦、湯本浩之、中村絵乃

発行日: 2019年12月1日

ウェブサイト: <http://www.dear.or.jp/org/2056/>

＜SDGsに関するアンケート調査の実施＞

DEAR 会員や開発教育実践者のSDGsに関する実践や認識について広く意見収集し、DEARのSDGsに関する事業の方向性や方法を検討することを目的にアンケート調査を実施した。

DEARに要望することについては、「教材の作成と実践事例の共有」が最も多かった。政策提言に関しては「SDGsの推進への提言」への期待が高かったが、「日本の教育保障への提言」についても特にNGO/NPOからは高い期待があった。

＜概要＞

実施期間: 2019年10月1日～11月30日

回答数: 102件

ウェブサイト:

<http://www.dear.or.jp/infomation/4941/>

＜研究会の開催(全7回)＞

d-lab(全国研究集会)の分科会の内容や、SDGsアンケートについて、さらに「SDGsハンドブック」の内容について検討を行った。

②「開発教育ファシリテーション研究」部会

研究会を立ち上げ、まずは、メンバーの開発教育のファシリテーションについて知見を共有し、論点を整理し、共通の課題について明らかにしていくこととなった。

2) 機関誌『開発教育』の編集発行

機関誌『開発教育』第 66 号を発行した。特集は「教育の画一性を問う」とした。教育における排除の問題に取り組み、教育の質的保障をしていくために、日本の教育制度や文化にある「画一性」の問題に向き合う必要があると考え設定された。子どもの権利や教育を取り巻く現状、画一性に抗う実践などについて、理論編や実践編、インタビューなどを掲載している。

<概要>

タイトル: 機関誌『開発教育』第 66 号

特集: 「教育の画一性を問う」

発行: 2019 年 12 月 10 日

発行部数: 900 部

価格: 2,000 円 (+税)

※2020 年 3 月に予定していた「機関誌を読む会」を 2020 年 5 月以降に開催予定。



3) d-lab2019(第 37 回開発教育全国研究集会)の開催

ワークショップ(6 コマ)、全体会(テーマ:わたしたちが、社会を変えるチカラになる。)、自主ラウンドテーブル(12 コマ)、実践事例・研究報告(4 コマ)、分科会(5 コマ)を通して、開発教育・ESD・国際理解教育等に関わる実践者の経験交流・意見交換を中心に据えながら、議論を深めた。全体会では、ゲストに土肥潤也さん(NPO 法人わかものまのまち)と樋山輝さん(palmstream 代表)をお呼びし、「社会を変えるチカラ」を培うことや価値観の異なる他者との協働について参加者と議論した。

また、多様な参加者が参加しやすい場づくりのために、要約筆記、パソコンによるノートテイク、託児などの対応を行った。

<概要>

日程: 2019 年 8 月 3 日(土)～4 日(日)

会場: JICA 地球ひろば(市ヶ谷)

参加者数: 301 名(関係者を含む)

主催: (特活)開発教育協会

後援: 文部科学省、外務省、環境省、消費者庁、東京都教育委員会、新宿区教育委員会、国連広報センター、JICA 地球ひろば、(特活)関西 NGO 協議会、(特活)国際協力 NGO センター、(一財)自治体国際化協会、(一社)SDGs 市民社会ネットワーク、ESD 活動支援センター、(公財)ユネスコ・アジア文化センター



III. 情報・出版事業

新規教材等の作成・増刷、ウェブサイトや SNS を活用した情報発信を行った。

1) 新規教材図書の企画編集と制作発行

開発教育に関連する次のような新規の教材や図書の企画編集や制作発行や増刷をおこなった。またそのために、引き続きその財源や出版社等との実施体制の確保に努めた。

①『気候変動—開発教育アクティビティ集3』

「気候変動」をテーマに一人ひとりが問題に向き合い、公正で持続可能な社会の在り方を考えることをねらいとして発行した。準備が簡単で、様々なテーマにつなげて展開したり、応用したりしやすい 4 つのアクティビティを収録している。

発行: 開発教育協会

発行日: 2020 年 3 月 20 日

判型・頁数: A4 判・44 頁

発行部数: 1,500 部

価格: 1,500 円 (+税)



②その他図書教材の編集企画・編集協力

既存の教材で在庫が少ない以下の教材の改訂・増刷発行を行った。

<単純増刷>

『基本アクティビティ集1～世界とのつながり』

発行: 開発教育協会

発行日: 2019 年 12 月

発行部数: 1,000 部

<改訂増刷発行>

『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』

第6版』

発行:開発教育協会

発行日:2020年3月20日

発行部数:1,500部

・全項にわたるデータ更新、アクティビティおよび展開のヒントの追加、役割カードの更新などを行った。



2) 出版物販売

当会発行の教材・図書資料をインターネット等を通じて販売した他、イベントでの直販、関係団体の発行図書の受託販売、教材カタログやAmazonなどの販路で販売を行い自己財源の強化を図った。

<書籍売り上げベスト5>

第1位『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら 第5版』	774冊
第2位『新・貿易ゲーム』	453冊
第3位『開発教育 基本アクティビティ集1』	325冊
第4位『スマホから考える世界・わたし・SDGs』	271冊
第5位『ソーシャル・アクション・ハンドブック』	256冊

3) 広報資料作成

①ウェブサイトの運営

開発教育ポータルサイトとしてウェブサイトでの情報発信を行った。よく読まれているのは「参加型学習」「教材」「イベント」関連のページである。ウェブリニューアル後しばらくは検索サイトへの浸透がされないうえ、アクセス数は減少した。また、モバイルユーザーがPCユーザーの割合を初めて上回った。

- ・ 87,472 セッション 前年: 289,400
- ・ 222,910 ページビュー 前年: 373,248
- ・ 平均サイト滞在時間 02:21 分 前年: 01:29 分
- ・ 新規セッション率 84.7% 前年: 88.3%
- ・ PC ユーザー48% モバイル 52%

②ウェブサイトのリニューアル

<http://www.dear.or.jp/>

モバイル末端利用者も増加していること、また、更新作業の効率化のために、2018年7月よりウェブサイトのリニューアル作業に取り組み、2019年5月に公開した。

NPO法人 Co.to.hana (コトハナ) にウェブの設計やデザインを依頼した。

③DEAR プラットフォームの新規開設

<http://platform.dear.or.jp/>

「学びあいフォーラム」事業の一環で、全国の開発教育の団体や実践、リソースを紹介するウェブサイトを2019年6月に開設した。

- ・ 4,615 セッション
- ・ 8,264 ページビュー
- ・ 平均サイト滞在時間 01:24 分
- ・ 新規セッション率 88.4%
- ・ PC ユーザー50% モバイル 50%

④スタッフ・ブログの運営

<http://dearstaff.blogspot.com/>

講師派遣レポートや事務局の日常業務等を不定期に掲載している。よく読まれているのは、講師派遣レポートである。

- ・ 投稿記事:40本 前年: 27本
- ・ 11,351セッション 前年: 10,853
- ・ 20,000ページビュー 前年: 16,930
- ・ 1.76平均ページビュー 前年:1.56
- ・ 新規セッション率87.3% 前年:90%

⑤Facebookページの運営

<https://www.facebook.com/ngoDEAR/>

2013年8月に全研広報用に開始し、9月末に公式Facebookページとしてリニューアルした。主催イベントや教材の紹介のほか、開発教育や国際協力に関連するニュースも配信している。社会課題を扱った記事や、教材・リソースに関する記事への反響が大きい。3月末の「いいね!」数:3,465(前年比+290)。

⑥メールマガジンの発行

毎月1回のメールマガジンの発行を開始し、主催事業や資料の情報を発信した。3月末現在3,548名(前年比+227名)が登録している。

⑦ツイッターの運営

<https://twitter.com/ngoDEAR>

2011年11月16日にツイッターを導入(アカウント名は@ngoDEAR)。イベント情報や教材関連情報を中心にツイートしている。3月のフォロワー数:1,098(前年比+154)。

⑧noteの運営

<https://note.mu/ngodear>

ニュースレター・チームの発案により2018年10月からページを開設し、ニュースレターや機関誌の記事を不定期に公開している。また、逝去された方の原



稿や講演録も掲載している。

ページビューは2,067件(昨年1,643件)、スキは36件(昨年23件)、記事購入者は6件(@100円/昨年3件)。

⑨資料請求者への対応

ウェブサイト上から無料での資料請求を実施した。ウェブリニューアルによりボタンが分かりやすくなり、請求数は激増。全国から請求があり、146件(前年20件)。うち13名(前年2名)の新入会があった。

⑩PR TIMESの利用

2018年度よりプレスリリース一括配信サービスPR TIMESの無償提供プロジェクトに参加登録している。不定期で教材発行やイベント情報を掲載している。複数のウェブメディア等に配信されるため、露出効果が高い。

IV. 人材育成事業

開発教育の実践者を支援し、増やすために、講師派遣事業や各種講座を行った。特に、アクティブラーニング、SDGsについて、ファシリテーター養成など、多様なニーズに対応した。

1) 講師派遣事業

政府機関・自治体・教育委員会・学校・大学・自治体国際化協会・NGOなどからの講師派遣依頼に対して、DEARの役職員等を講師として計50件108回派遣した。述べ参加者は約4,000名。

依頼先は大学や高校、自治体、NGOなどが多く、内容は各種ワークショップの他、アクティブラーニング研修やSDGsをテーマにしたもの、ファシリテーター養成などの内容が多かった。詳細は資料編(p.16)を参照。



2) 教材体験フェスタ 2020

年度当初計画していた標記教材フェスタは、COVID-19の感染拡大防止のため、開催中止となった。既に支払い済みの参加費については、迅速に返金を行った。返金方法の一つとして、DEARへの寄付や会費を選択肢に入れたところ、22件の寄付と2件の会費の納入があった。また、フェスタの申込者には、3月末までの書籍送料無料キャンペーンを行い、8件の利用があった。

3) 各種講座

①「開発教育入門講座」

開発教育の基礎的理解を目的とした入門講座を毎月1回、計11回(8月はd-labで実施)、延べ185名の参加者を得て開催した。

11回の講座のうち4回は「特別編」として、「難民」(6月)、「豊かさと開発」(7月/横浜YMCAと共催)、「スマホから考える世界・わたし・SDGs」(10月)、「世界がもし100人の村だったら」(2月)を実施した。

②トークイベント「幸せと民主主義の国？ デンマークから考えるミライの教育」

デンマークの大学院で教育人類学を学ぶ小口瑛子前職員と、クラスメイトで小学校や学童で働いていた経験のあるピーター・カウ氏を招き、二人の目から見たデンマークの教育や社会についてお話しいただくイベントを開催した。

<概要>

日時:2019年6月27日(木)

会場:聖心グローバルプラザ・BE*hive

ゲスト:小口瑛子(オーフス大学大学院)

ピーター・カウ(オーフス大学大学院、学童職員、Social Educator)

参加者:30名

V. 政策提言事業

中期重点方針4にもあるように、SDG4.7を中心に、開発教育やESD実施のための提案をほかの市民団体やネットワークと連携・協力しながら進めた。

1) 行政に対する政策提言

①国際協力政策・援助政策に対する政策提言

SDGs市民社会ネットワークの教育ワーキンググループの国内担当になることで、特に国内の教育問題に関するSDGs政策への提言を行うことができた。

2019年6月に大阪で開催されたG20に先駆けて開催されたC20(Civil20)において、教育協力NGOネットワーク(JNNE)とともに教育の分科会を開催したり、SDGs実施指針の改定に向けた市民側の提案への協力を行った。その結果、改定指針の中の「教育機関」の項目に、学校以外の教育機会、ESD、社会教育関連機関などの文言が追加された。

そのほか、4年に一度開催されるDAC Peer Reviewの意識啓発に関する意見提出と懇談会への出席を通して、国内における開発教育の重要性を提言した。

<C20 教育協力分科会の実施>

セッション名:教育への資金拠出に関するG20の役割

日時:2019年4月22日(月)13:15~15:15

会場:虎ノ門ヒルズフォーラム 5F ホールA

内容:教育への資金における課題の提起

参加者:約100名

協力内容:教育援助について、必要な教育資金と実際の援助額、ゲーム産業や軍事費と比べて、リボンで示すシミュレーション(「世界一大きな授業」(JNNE))の実施。

② 教育行政・教育政策に関する政策提言

2019年度は「ESDグローバルアクションプログラム(GAP)」の最終年にあたり、国内外で実施計画などの見直しが行われた。7月には中村事務局長がベトナムで開催されたユネスコフォーラムに参加し、ESDの取り組みを共有した。

さらに、国連ではGAPの後継プログラムとして「ESDfor2030」が策定された。国内の実施計画の見直しは、ESD円卓会議のメンバー間でメール上行われ、上條代表理事が提案書を提出した。

<持続可能な開発のための教育円卓会議 メール審議>

日時:2020年3月

内容:ESD国内実施計画レビューへの意見提出

<UNESCO2019 フォーラム in ハノイ>

日時:2019年7月2日~3日

場所:ベトナム・ハノイ

テーマ:「平和で持続可能な社会のための学びと教育:幼児教育から初等、中等教育」

参加者:350名

2)キャンペーンへの協力

①教育協力NGOネットワーク(JNNE)主催「世界一大きな授業2019」への協力

基礎教育を受けられない子どもたちや非識字の人々が世界中に多くいる現状に目を向け教育の大切さを世界中で同じ時期に考える、グローバルなキャンペーン。2016年度よりSDG4(教育目標)達成を目標に掲げている。

<概要>

日程:2019年4月13日~6月30日

協力内容:教員の手引の作成、助言、広報。仙台・東京・愛媛での実践者のためのプレ・ワークショップ開催への協力。

参加者数:622団体の49,294人

また、2020年度からJNNE主宰で行う、「SDG for/4」キャンペーンの事務局をDEARが担うことになった。

VI.その他の事業

1)受託事業

①外務省「NGO相談員プログラム」

外務省より標記プログラムを受託し、関東圏を中心に全国から開発教育や国際協力に関する幅広い相談を825件受けた。出張サービスは関東圏を中心に10件行った。また、SNSを通じて相談員制度に関する情報発信も行い、約13,608件のリーチ数であった。

②JICA NGO等提案型研修

JICAより標記プログラムを受託し、NGOや開発教育を推進する市民団体の組織強化、ネットワーク強化のための「SDGs達成に向けた開発教育実践者の育成」事業を実施した。

具体的には、東北、新潟におけるセミナーを開催し、3年間の事業の締めくくりとして、関わった団体等による教材発表の場として「SDGs教材おためしセミナーin東京」を開催し、成果物として「NGOの教材づくりアイデアブック」を発行した。

<セミナー概要>

- ・2019年7月13日(土)「教材づくりセミナー in 仙台~NGO等の開発教育教材を学ぶ~」(宮城)
- ・2019年9月7日(土)「沖縄から始めるSDGsムーブメント SDGsはじめての一步ワークショップ」(沖縄)
- ・2019年11月24日(土)「Let's コラボレーション! 教育×地域×SDGs」(新潟)

「SDGs教材おためしセミナー2019 in 東京～NGO等の開発教育教材を一緒に作る」

日時:2019年11月2日(土)10:00～17:00

会場:JICA東京

参加者数:100名(関係者を含む)・約59団体

プログラム:

分科会A:NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会(京井杏奈、青柳沙恵)

分科会B:いわて国際理解教育研究会(鎌田修全、藤澤義栄)

分科会C:NPO法人沖縄NGOセンター(ONC)(玉城直美、内山直美、黒田華)

分科会D:プランテーション・ウォッチ(越智由佳、松下直樹、飯沼佐代子、中司喬之、三上雄己)

分科会E:大阪府在日外国人教育研究協議会(柴田昌平、榎井縁)

分科会F:にいがたNGOネットワーク国際教育研究会RING(関愛)



<成果物>

「NGOのための教材づくりアイデアブック」

3年間の事業のまとめとして、NGOと教材づくりを行う中で見えてきた教材づくりのポイントまとめ、セミナーや参加団体の教材と紹介とともに掲載し、無料ダウンロード教材として発行した。教材づくりや改善する際にNGO等が使うことができる。

発行:開発教育協会

発行日:2019年12月27日

形態:B5判20頁

デザイン・イラスト・編集:

NPO法人Co.to.hana

価格:無料・ダウンロード形式

※JICA NGO等提案型プロ

ラム「SDGs達成に向けた開発教育実践者の育成」の経験から、NGOが教材づくりをするときのポイントを抽出し作成した。

ウェブ:<http://www.dear.or.jp/books/book02/4727/>



③聖心グローバルプラザ内「BE*hive」

聖心女子大学グローバルプラザ内に設置された展示・ワークショップスペース「BE*hive(ビー・ハイブ)」の展示を活用したワークショップの企画・運営等を行った。

<概要>

聖心グローバルプラザ「BE*hive」

主管:聖心グローバル共生研究所

<業務内容>

A.展示企画

・企画の構想協力・教育的な視点の付加

B.ワークショップの企画

・展示を使ったワークショップの企画

・ワークシート・プレゼン資料の作成

・ワークショップ進行案・実施後のふりかえり・ワークショップの改善

C.ワークショップの実施

・ワークショップ実施回数:31回(うち聖心女子大学学生向け22回)

・参加合計数:約680名(うち聖心女子大学基礎課程演習参加者約160名)



2)外部団体との共催・協力事業

①2019年度開発教育・国際教育セミナー実践編

<主管:DEAR大阪>

(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センターが共催する、開発教育に関する基礎的理解を目的とした連続セミナーの企画・開催に協力した。

<開催実績>

日程:2019年10月6日(日)10:00～16:00

プログラム:ワークショップ『援助する前に考えよう』

会場:大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)

共催:(公財)大阪国際交流センター、(公財)大阪府国際交流財団、(独)国際協力機構関西国際センター

協力:DEAR大阪

後援:大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、(特活)関西NGO協議会

講師:佐藤 友紀(DEAR)

参加者数:41名

③ 米国大使館「Girls Unlimited Program 2019」

米国大使館より助成を受け女子中高生を対象とした、エンパワメントおよびリーダーシップを身につけることを目的とした標記プログラムの企画及び運営を行った。

<概要>

日時:2019年9月3日、9月10日、10月2日、11月13日、12月8日(全5回)

助成:米国大使館

会 場:聖心グローバルプラザ

参加者:女子中高生35名、米国留学経験者／人物交流プログラム参加経験者36名

④ プランテーション・ウォッチ教材作成への協力

NGO のネットワーク団体「プランテーション・ウォッチ」の作成するアブラヤシ・プランテーション開発をテーマにした教材についての内容や進め方、編集などに関して協力した。

2017 年度～19 年度までの 3 か年のプロジェクトで、2019 年 3 月に完成した。

3. 組織運営に関する報告

1) 会報「DEAR ニュース」の編集発行

開発教育の関連情報をはじめ、DEARや各地の「担い手」などの活動状況を紹介することを目的とした会報を5回(4・6・8・10・2月)、各号1,000部を発行した。

また、過去掲載の記事の一部をウェブメディアの「note」に公開し、会員以外の方にも読めるようにした(1記事100円の有料配信)。



<発行実績>

- ・ 第191号(発行:4月1日) 特集「バイオマス発電の運用の現状と課題」泊みゆき(バイオマス産業社会ネットワーク)
- ・ 第192号(発行:6月1日) 特集「若者たちが考える(沖縄県)知事選」玉城直美(沖縄NGOセンター理事長／沖縄キリスト教学院大学)
- ・ 第193号(発行:8月1日) 特集「ヒューマンライブラリー 多様性を育む『生きている図書館』の

実践」岡智之(東京学芸大学留学生センター)

- ・ 第194号(発行:10月1日) 特集『『表現の不自由展・その後』の中止から『慰安婦』問題をめぐる日本と国際社会の認識のギャップ』藤本伸樹(ヒューライツ大阪研究員)
- ・ 第195号(発行:2月1日) 特集「18歳成人と成人式」田中治彦(DEAR理事)

2) サポーターの募集

継続的に DEAR をサポートしてくれる人を増やし、組織強化につなげるために、2014 年 12 月よりサポーター制度(年 4,000 円以上の定額寄付制度)を開始し、募集をすすめている。今年度は、過去会員や研修会参加者、書籍購入者にメールや郵送 DM を送り、サポーターへの依頼を行った。

3) クラウドファンディングの実施

教材『気候変動』作成のための費用をクラウドファンディングで集め、160 名の方から 794,000 円を集めることができた。クラウドファンディングは今回初めて行ったが、今まで DEAR を知らない方も多く寄付してくださったことから、教材の広報としても成果があった。今後も実施していきたい。

教材『気候変動』クラウドファンディング

実施期間:2019 年 12 月 16 日～2020 年 1 月 31 日

目標金額:50 万円

媒体:syncable

寄付数:160 名、166 件

合計:794,000 円

以上

処務の概要

1) 会員に関する事項

2020年3月末現在の会員数は、次の通り。ただし、括弧内は昨年末比の数字。

- 正会員 団体 21団体(－1団体)
 個人 404名(－9名)
- 賛助会員 団体 17団体(±0団体)
 個人 236名(－6名)
 (内学生会員:20名／－3名)
- ＜参考＞ 団体会員 38団体(－1団体)
 個人会員 640名(－15名)



2) 役員に関する事項

(註:役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

●代表理事

上條直美(公益財団法人日本YMCA同盟)

●副代表理事

湯本浩之(宇都宮大学)

●常任理事

阿部秀樹(会社員)

阿部眞理子((認定NPO)IVY)

近藤牧子(大学非常勤講師)

前嶋 葵((特活)コモンビート)

松倉紗野香(中学校教員)

●理事

宇井志緒利(立教大学)

榎井 縁

(大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラム)

坂口和隆(認定NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会)

佐藤友紀(高校教員)

城谷尚子(教育協力NGOネットワーク、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)(～2020年3月)

田中治彦(上智大学)

三輪 敦子((一財)アジア・太平洋人権情報センター)

本山 明(大学講師)

中村絵乃((認定NPO)開発教育協会)

●監事

岩崎裕保(NPO法人関西NGO協議会)

山崎唯司(団体役員)

●評議員

秋山映美(NPO法人監獄人権センター)

伊藤通子(東京都市大学)

枝木美香((認定NPO)アーユス仏教国際協力ネットワーク)

大江 浩(公益財団法人日本YMCA同盟)

甲斐田万智子((認定NPO)子ども権利センター)

重田康博(宇都宮大学)

鈴木洋一(Wake Up Japan)

高階悠輔(公益財団法人横浜YMCA)

田中 博(参加型評価ファシリテーター)

田中 滋(NPO法人アジア太平洋資料センター)

椿原 恵

(コミュニティコミュニケーション・サポートセンター(Commu))

永田佳之(聖心女子大学)

奈良崎文乃(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

檜府暢子(東京大学附属中等教育学校教員)

西平久美子(会社員)

浜本裕子(YMCA学院高等学校)

林 大介(模擬選挙推進ネットワーク)

諸 英樹(ジオグラフィー)

3) 会員総会に関する事項

2019年度定期会員総会

日時:2019年5月25日(土)

会場:富坂キリスト教センター1号館

<第1部>13:00～15:00

公開ワークショップ「難民」

<第2部> 15:30～17:00

2018年度定期会員総会議案

<議案審議>

第1号議案

2018年度事業報告および決算報告について

<報告>

①2019年度事業計画および予算について

②2019～2021年度中期方針・計画について

③SDGs基本方針について

④会員表彰式

<第3部>

会員交流会

4) 理事会に関する事項

●第1回理事会

日時:2019年5月25日(土)17:00～19:00

会場:富坂キリスト教センター1号館

議案:

1. 各種委員会の設置および委員選任

●第2回理事会

日時:2019年10月19日(土)13:00～16:00

会場:富坂キリスト教センター1号館

議案:

1. 上半期事業報告・決算報告・下半期事業計画
2. 評議員候補者選考委員会について
3. 組織基盤強化について
4. 中期計画について
5. 城北信用金庫口座開設について
6. 今後の予定

●第3回理事会

日時:2019年3月6日(土)

会場:書面表決

議案:

1. 2019年度の事業報告・決算見込報告
2. 2020年度事業計画・予算について
3. 城谷尚子理事の退任について
4. 理事任期3期を越える田中治彦氏の理事候補者の推薦について

●第4回理事会

日時:2020年4月25日(土)13:00～16:00

会場:オンライン会議

議案:

1. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策に

ついて

2. 2019年度の事業報告・決算報告
3. 2020年度事業計画・予算
4. 役員改選について
5. 会員総会について

5) 評議員会に関する事項

●第1回評議員会 & 評議員・理事合同会議

日時:2019年9月28日(土)13:00～17:00

会場:富坂キリスト教センター1号館

<第1部>評議員会

1. DEAR 報告
 2. 理事候補者選考委員の選出・決定
- <第2部>評議員・理事合同会議

1. SDGsについて課題提起
2. DEARのSDGs戦略について
3. グループディスカッション

<第3部>

懇親会

6) 2019年度事業評価・2020年度計画会議

2019年度の事業評価と、2020年度の事業計画を共有し、議論した。

日時:2020年2月11日(祝)10:00～17:00

会場:富坂キリスト教センター1号館

議題:

- ・2019年度事業評価
- ・2020年度事業計画

7) 各種委員会に関する事項

本年度は、次のような各種委員会が理事会内に設置され、当会の運営や事業について協議を行った。

(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

①DEAR大阪運営委員

委員長:佐藤友紀(高校教員)

委員:荒川共生((特活)ボルネオ保全トラストジャパン)／岩崎裕保(DEAR監事)／内田弘志(株式会社拓人)／大森容子((公財)滋賀県国際協会)／談儀善弘(高校教員)／浜本裕子(YMCA学院高等学校)／榛木恵子((社福)聖和共働福祉会)／丸山まり子(地球市民フォーラムなら)／松田道子((公財)神戸YMCA)／三輪敦子((一財)アジア・太平洋人権情報センター)／山中信幸(川崎医療福祉大学)

8) プロジェクト・チームに関する事項

本年度は、以下のような研究会やプロジェクト・チームが設置され、各事業や活動の企画運営にあたった。
(註:役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

＜研究会・プロジェクト・チーム＞

①SDGs研究会

宇井志緒利(立教大学)、近藤牧子(大学非常勤講師)、田中治彦(上智大学)、藤原孝章(同志社女子大学)、松倉紗野香(中学校教員)、本山明(大学講師)、湯本浩之(宇都宮大学)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

②ファシリテーション研究会

上條直美(日本YMCA同盟)、近藤牧子(大学非常勤講師)、檜府暢子(東京大学付属中等教育学校教員)、松倉紗野香(中学校教員)、山中信幸(川崎医療福祉大学)、岩岡由季子、八木亜紀子(DEAR)

③d-lab2019(第37回開発教育全国研究集会)実行委員会

井手将夫(高校教員)、岡秀樹(幼稚園園長)、近藤牧子(早稲田大学)、田中治彦(上智大学)、西平久美子(DEAR評議員)、松尾慎(東京女子大学)、本山明(法政大学)、中村絵乃・八木亜紀子・岩岡由季子(DEAR)

④機関誌「開発教育」編集委員会・査読委員会

青沼由衣(早稲田大学大学院)、磯野昌子(かながわ開発教育センター)、岩崎裕保(DEAR監事)、小野行雄(高校教員)、上條直美(上智大学)、近藤牧子(特集担当、早稲田大学)、佐渡友哲(日本大学)、曾我幸代(名古屋市立大学)、田中治彦(上智大学)、奈良崎文乃(国際NGO)、西あい(「学びあいフォーラム」コーディネーター)、二ノ宮リムさち(東海大学)、野口扶美子(ロイヤルメルボルン工科大学大学院博士課程)、藤原孝章(同志社女子大学)、三輪敦子((一財)アジア・太平洋人権情報センター)、湯本浩之(宇都宮大学)、岩岡由季子・中村絵乃(DEAR)

⑤「開発教育入門講座」チーム

福島智子(リーダー／桜美林大学)、大平和希子(大学院生)、大野のどか(カフェオーナー)、定光香(会社員)、田中浩平(団体職員)、萩原菜月(東京大学大学院)、宮原契子(団体職員)、八木亜紀子・岩岡由季子(DEAR)

⑥会報「DEARニュース」編集委員会

阿部秀樹(リーダー／会社員)、清水千絵(団体職員)、須磨珠樹(会社員)、滝本雅章(事務局ボランティア)、田中祥一(高校教員)、出口雅子(NGO職員)、菊池哲

佳(団体職員)、佐藤友梨(会社員)、松下彩(会社員)、中園真由美(教員)、八木亜紀子(DEAR)

⑦「学びあい」コーディネーターチーム

阿部真理子(IVY)、大野のどか(八王子市民のがっこうまなび・つなぐ広場)、上條直美(日本YMCA同盟)、佐藤友紀(高校教員)、関愛(にいがたNGOネットワーク国際教育研究会RING)、椿原恵(コミュニティコミュニケーション・サポートセンター)、南雲勇多(東日本国際大学)、西あい(学びあい事業コーディネーター)、山西優二(早稲田大学)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

9)職員に関する事項

事務局長	中村 絵乃(有給・常勤・専従)
事業主任	八木 亜紀子(有給・常勤・専従)
事業担当	伊藤 容子(有給・常勤・専従)
事業担当	岩岡由季子(有給・常勤・専従)
経理・総務担当	牧 啓太(有給・常勤・専従)
書籍担当	若松 陽子(有給・非常勤・嘱託)

10)インターン・ボランティアに関する事項

今年度に事務局で受け入れを行ったインターン・ボランティアは次の通り。

＜事務局インターン＞

倪 萍(大学生、2019年8月)

※明治大学ALL MEIJIインターンシップ・プログラム

＜事務局ボランティア＞

滝本雅章(社会人、2007年11月～継続)

氏井紅葉(学生、2018年8月～継続)

石崎百合子(大学院生、2019年4月～継続)

岡村万智子(大学生、2019年9月～2020年1月)

久保井 奈美(社会人)

小林毅弘(大学生、2019年10月～継続)

武内友里恵(大学生、2019年11月～継続)

丸山晴奈(大学生、2019年12月～2020年3月)

また、d-lab2019(第37回開発教育全国研究集会)には約30名のボランティア参加があった。

11)会員団体に関する事項

DEARが会員として参加した団体は次の通り。

＜正会員＞

- ・ (特活)国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・ 教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・ (一社)SDGs市民社会ネットワーク
- ・ アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE)

＜賛助会員＞

- ・ (特活)シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

資料1： 出版・編集・取材協力など

<書籍>

①『SDGsカリキュラムの創造～ESDから広がる持続可能な未来』(2019年12月24日)
発行:学文社
内容:SDGsカリキュラムのための理論と実践事例について、DEARの複数の理事が執筆した。

<雑誌>

①『週刊教育資料』No.1555(2020年2月)
発行:日本教育新聞社編集・教育公論社発行
内容:開発教育とDEARの活動の取材記事が掲載された。

<新聞>

①読売新聞朝刊(2019年4月19日)
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに協力して制作した教材『先生・ファシリテーターのための 持続可能な開発目標 -SDGs- アクティビティ集』が紹介された。

②中日新聞(静岡版)(2019年7月9日)
講師派遣の取材記事「持続可能な社会へ市民ら理解深める」が掲載され。

③東京新聞(2019年7月14日)
Girls Unlimited Program2019の募集記事が掲載された。

④沖縄タイムス(2019年9月10日)
講師派遣の取材記事「経済成長より多様性の尊重 沖縄のこれから10年どう開発 SDGsワークショップで論議」が掲載された。

⑤琉球新報(2019年9月19日)
講師派遣の取材記事「社会課題解決、ゲーム通し考える 西原町でSDGsワークショップ 教員、行政職員、会社員70人参加」が掲載された

⑥奈良新聞(2019年11月30日)
企画面「私たちのSDGs 成長と社会性の両立」に、森脇大統さん(アスカ美装)と岩崎裕保さん(DEAR元代表・監事)の対談記事が掲載された。

<ウェブメディア>

PR TIMESを通して以下の記事を配信した。

①2019年3月「2018年の日本の難民認定数42人ーワークショップ教材『難民』を發行」
・ページビュー:1,229件／転載サイト:29件

②2019年4月「仙台・熊本で「世界一大きな授業のすすめ方」実践者のためのワークショップを開催」
・ページビュー:1,265件／転載サイト:52件

③2019年6月「d-lab2019開催！楽しいワークショップと実践事例がいっぱい」
・ページビュー:1,807件／転載サイト:55件

④2019年6月「アメリカ大使館×DEAR共催 Girls Unlimited Program 2019」
・ページビュー:2,331件／転載サイト:50件

⑤2019年12月「機関誌『開発教育』最新号「教育の画一性を問う」発行！」
・ページビュー:1,035件／転載サイト:31件

⑥2019年12月「ワークショップ教材「気候変動」制作のためのクラウドファンディングを開始」
・ページビュー:1328件／転載サイト:26件

⑦2020年1月【中止】教材体験FESTA2020 2日間で21コマのワークショップ！
・ページビュー:1,353件／転載サイト:55件

⑧2020年3月「人気のワークショップ教材『ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら』第6版発行！」
・ページビュー:565件／転載サイト:37件

⑨2020年3月「延べ58万人以上が参加しているキャンペーン「SDG4 教育キャンペーン 2020(旧:世界一大きな授業)」参加者募集スタート！」
・ページビュー:587件／転載サイト:29件

⑩2020年3月「ワークショップ教材『気候変動 開発教育アクティビティ集3』發行」
・ページビュー:251件／転載サイト:19件

※ 転載サイト例:東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、朝日新聞デジタル&M、ニコニコニュース、等

以上

資料 2: 「名義後援・協力」の実績一覧 (計 14 件)

<後援名義>

- ①独立行政法人国際協力機構
「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2019」
- ②(公財)滋賀県国際協会
「2019 年度国際教育体験フェア」
- ③(公財)日本クリスチャン・アカデミー 関西セミナーハウス活動センター
「2019 年度 開発教育セミナー」
- ④(特活)ヒューマンライツ・ナウ
「第 5 回全国中高生『世界子どもの日』映像スピーチコンテスト」
- ⑤独立行政法人国際協力機構関西センター
「2019 年度開発教育・国際教育セミナー」
- ⑥(特活)関西NGO協議会
「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth2019」
- ⑦(特活)国際子ども権利センター
「子どもの権利条約 30 周年記念シンポジウム」
- ⑧コンゴの性暴力と紛争を考える会 (ASVCC)

「デニ・ムクウェゲ医師来日講演会」

- ⑨(公財)滋賀県国際協会
「令和元年(2019 年)度国際教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てようpart18」

- ⑩立正校成会
「青年の日」

<協力名義>

- ①(公財)プラン・インターナショナル・ジャパン
「プラン・インターナショナル夏休み読書感想文コンクール 2019」
- ②独立行政法人国際協力機構関西センター
「2019 年度開発教育・国際教育セミナー 実践編①国際協力ひろば『もっと知ろう国際協力』」
- ③宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
「第 11 回グローバル教育セミナー 教育問題とグローバル教育」
- ④独立行政法人国際協力機構関西センター
「2019 年度開発教育・国際教育セミナー 実践編2」

資料 3: 他団体への「賛同・協賛」の実績一覧 (計 3 件)

<賛同>

- ①NGO非戦ネット
目的:国際協力・交流活動に取り組むNGOや市民の立場から、武力で平和は作れないという信念のもと、NGOだからこそ発信できる声を市民に届け、市民が広く結集するネットワークをめざす。
期間:2015 年 7 月 2 日～

- ②「世界食料デー」月間 2019 みんなで食べる幸せを
飢餓や食料問題に取り組む国際機関や NGO/NPO、企業や教育機関などが、世界食料

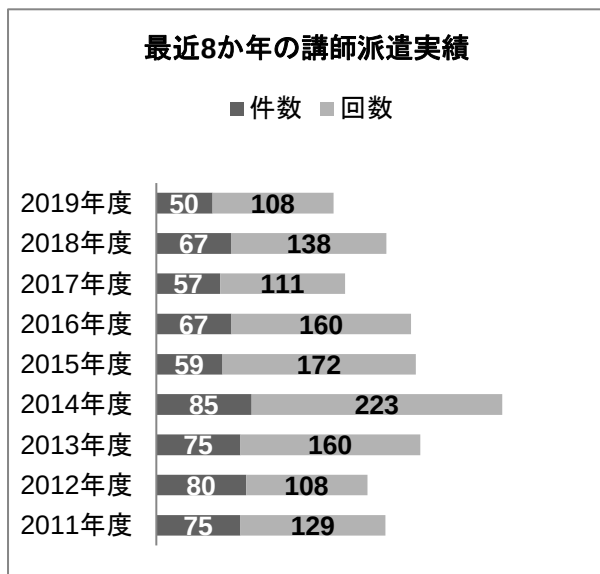
デーに向けて実施する企画を相互に協力・広報を行うことで、1 人でも多くの人に飢餓や食料問題について知ってもらう。また解決に向けて何ができるのか考え、行動する機会を提供する。
期間:2019 年 10 月 1 日～31 日

<協賛>

- ③国際環境 NGO FoE Japan
国際シンポジウム 3・11から9年 どう伝える? 原発事故のこと

以上

資料 4:「講師派遣」の実績一覧（計 50 件 108 回）



1 「グローバル・イシューズ(CL クラスの授業)」(2019.4/24/計 1 回)

主催: 桜丘中学・高等学校
 内容: 100 人村
 対象: 高校生
 派遣者: 岩岡由季子(事務局長)

2 「国際教育学ゼミナール」(2019.4/24/計 1 回)

主催: 上智大学 短期大学部
 内容: 難民
 対象: 大学生
 派遣者: 伊藤容子(事務局長)

3 「H31 年度県・市町村環境学習研修」(2019.5/17/計 1 回)

主催: 神奈川県環境科学センター
 内容: パーム油
 対象: 自治体・公務員
 派遣者: 伊藤容子(事務局長)

4 「フィールドワーク国際セミナー」(2019.6/8/計 4 回)

主催: 鎌倉女学院中学校・高等学校
 内容: パーム油; コーヒーカップの向こう側
 対象: 高校生
 派遣者: 伊藤容子(事務局長)、岩岡由季子(事務局長)

5 「JICA 教師海外研修事前・事後研修」(2019.6/9,7/7,8/25/計 3 回)

主催: JICA 関西
 内容: フォトランゲージ、振り返りのファシリテーション
 対象: 教員
 派遣者: 佐藤友紀(理事)

6 「社会薬学 1」(2019.6/10/計 1 回)

主催: 横浜薬科大学
 内容: 貿易ゲーム
 対象: 大学生
 派遣者: 八木亜紀子(事業主任)

7 「2019 年度 国際文化研修「自治体外国人施策の実務～第一線で対応する方のために～」」(2019.6/11/計 1 回)

主催: (財) 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所
 内容: バーンガなど
 対象: 自治体・公務員
 派遣者: 中村絵乃(事務局長)

8 「新人研修」(2019.6/18,9/12,10/16,11/20/計 4 回)

主催: 神奈川県民生医療機関連合会
 内容: 貧困について
 対象: 医療従事者
 派遣者: 伊藤容子(事務局長)、西あい(学びあいコーディネーター)、岩岡由季子(事務局長)

9 「2019 年度ふくしまグローバル人材育成指導者研修会」(2019.7/6/計 1 回)

主催: 公益財団法人 福島県国際交流協会
 内容: オリンピック・パラリンピック
 対象: 一般・市民
 派遣者: 井手将夫(ボランティア)

10 「NPO プレゼント講座「持続可能な未来のために～知ろう、使おう SDGs」」(2019.7/7/計 1 回)

主催: NPO 法人浜松 NPO ネットワークセンター
 内容: SDGs について
 対象: 一般・市民
 派遣者: 八木亜紀子(事業主任)

11 「国際理解講座」(2019.7/18/計 1 回)

主催: 一般財団法人国際都市おおた協会
 内容: 地球の食卓
 対象: 大学生
 派遣者: 伊藤容子(事務局長)

12 「職責者研修会」(2019.7/18,8/26,10/24/計 3 回)

主催: 神奈川県民生医療機関連合会
 内容: 対立から学ぶ; バーンガ; その他
 対象: 医療従事者
 派遣者: 中村絵乃(事務局長)、西あい(学びあいコーディネーター)

13 「探究学習向けファシリテーション研修」(2019.7/19/計 1 回)

主催: 青山学院高等部
 内容: その他
 対象: 教員・教育関係者
 派遣者: 中村絵乃(事務局長)

14 「夏休み特別企画 子どもが学ぶ人権学習」(2019.7/27/計 1 回)

主催: 公益社団法人 鳥取県人権文化センター
 内容: 地球の食卓
 対象: 小学生
 派遣者: 佐藤友紀(理事)

15 「第 52 回岡山県私学教育研修会(第 4 部会: 国際理解)」(2019.8/1/計 1 回)

主催: 岡山県私学協会
 内容: SDGs について
 対象: 教員・教育関係者
 派遣者: 岩崎裕保(監事)

16 「上智大学教員免許状更新講習」(2019.8/23／計 1 回)

主催:上智大学
内容:100 人村など
対象:教員・教育関係者
派遣者:中村絵乃(事務局長)

17 「夏期教員研修会」(2019.8/29／計 1 回)

主催:星美学園中学校高等学校
内容:その他
対象:教員・教育関係者
派遣者:八木亜紀子(事業主任)

18 「東北大学教育学研究科」(2019.8/31／計 1 回)

主催:日本グローバル教育学会
内容:開発教育について
対象:教員・教育関係者
派遣者:中村絵乃(事務局長)

19 「SDGs学習会」(2019.9/18／計 1 回)

主催:立正佼成会
内容:SDGs について
対象:NGO・団体職員
派遣者:八木亜紀子(事業主任)

20 「日本 YMCA スタッフ研修ステップⅡ講義「地域と世界をつなぐ SDGs ワークショップ」」(2019.9/25／計 1 回)

主催:(財)日本YMCA同盟
内容:SDGs について
対象:NGO・団体職員
派遣者:中村絵乃(事務局長)

21 「ノートルダム女学院 グローバル英語コース グローバルワークショップ」(2019.9/28／計 1 回)

主催:(財)大阪国際交流センター
内容:100 人村
対象:高校生
派遣者:佐藤友紀(理事)

22 「親子体験学習会」(2019.9/28／計 2 回)

主催:米井 慎一
内容:100 人村
対象:小学生および保護者
派遣者:伊藤容子(事務局長)、岩岡由季子(事務局長)

23 「神奈川県主催 消費者教育実践連続講座」(2019.10/5／計 1 回)

主催:公益財団法人 消費者教育支援センター
内容:地球の食卓
対象:一般・市民
派遣者:岩岡由季子

24 「国際理解ワークショップ」(2019.10/7／計 1 回)

主催:東京都私立初等学校協会 社会科部
内容:100 人村
対象:小学生および保護者
派遣者:伊藤容子(事務局長)

25 「社会貢献教育ファシリテータースキルアップ研修」(2019.10/17／計 1 回)

主催:(特活)日本ファンドレイジング協会

内容:その他
対象:団体・ボランティア・インターン
派遣者:八木亜紀子(事業主任)

26 「会員サービスセンター研修」(2019.10/29／計 1 回)

主催:公益財団法人日本生産性本部
内容:100 人村
対象:企業・会社員
派遣者:八木亜紀子(事業主任)

27 「国際理解ワークショップ」(2019.11/7／計 1 回)

主催:八王子市多文化共生推進課
内容:100 人村
対象:一般・不特定の市民
派遣者:中村絵乃(事務局長)

28 「パームオイルと私たちの暮らし」(2019.11/7／計 1 回)

主催:文京学院大学
内容:パーム油
対象:大学生
派遣者:伊藤容子(事務局長)

29 「みんなで学ぶ地域福祉」(2019.11/9／計 1 回)

主催:横浜市都筑区佐江戸加賀原地区社会福祉協議会
内容:地球の食卓
対象:団体・ボランティア・インターン
派遣者:岩岡由季子(事務局長)

30 「島根県インターアクト指導者講習会」(2019.11/9／計 1 回)

主催:永島 一忠
内容:SDGs について
対象:高校生
派遣者:山中信幸(DEAR 大阪運営委員)

31 「武蔵野市 環境の学校」(2019.11/16／計 1 回)

主催:株式会社ダイナックス都市環境研究所
内容:SDGs について
対象:一般・不特定の市民
派遣者:八木亜紀子(事業主任)

32 「武蔵野市 環境の学校」(2019.11/24／計 1 回)

主催:株式会社ダイナックス都市環境研究所
内容:SDGs について
対象:大学生
派遣者:八木亜紀子(事業主任)

33 「ASEF CLASS NET 15」(2019.11/27／計 1 回)

主催:上智大学
内容:スマホ
対象:教員・教育関係者
派遣者:中村絵乃(事務局長)、伊藤容子(事務局長)

34 「プラスチック問題に関する社員向け講座」(2019.12/4／計 1 回)

主催:日清食品ホールディングス株式会社
内容:プラスチックゴミについて
対象:企業・会社員
派遣者:八木亜紀子(事業主任)、岩岡由季子(事務局長)

35 「国際 NGO 論」(2019.12/11／計 1 回)

主催:龍谷大学

内容:スマホ
対象:大学生
派遣者:佐藤友紀(理事)

36 「東洋大学ボランティアウィーク 2019～人権とボランティアについて考えよう～」(2019.12/13／計 1 回)

主催:東洋大学 社会貢献センター
内容:100 人村
対象:大学生
派遣者:八木亜紀子(事業主任)

37 「ボランティア活動スペース(VOLAS)特別講座」(2019.12/17／計 1 回)

主催:東京外国語大学 ボランティア活動スペース
内容:スマホ
対象:大学生
派遣者:岩岡由季子(事務局員)

38 「総合的な学習の時間(国際理解)1 回目」(2019.12/20／計 4 回)

主催:千代田区立九段中等教育学校
内容:パーム油
対象:中学生
派遣者:中村絵乃(事務局員)、八木亜紀子(事業主任)、伊藤容子(事務局員)、岩岡由季子(事務局員)、大野のどか(ボランティア)

39 「消費生活講座キッズ編」(2019.12/25／計 1 回)

主催:近江八幡市消費生活センター
内容:地球の食卓
対象:小学生および保護者
派遣者:友前尚子(DEAR 大阪運営委員)

40 「FD・SD 研修会 評価と指導の一体化につながるルーブリック」(2019.12/26／計 1 回)

主催:川崎医療福祉大学
内容:授業評価
対象:教員・教育関係者
派遣者:近藤牧子(理事)

41 「東京都立北園高校でのパーム油ワークショップ」(2020.1/29／計 1 回)

主催:一般財団法人 地球・人間環境フォーラム
内容:パーム油
対象:高校生
派遣者:八木亜紀子(事業主任)、岩岡由季子(事務局員)

42 「ともに生きる」(2019.9/20,10/25,11/29,12/16,2020.1/24,2/14／計 6 回)

主催:特定非営利活動法人フリースペースたまりば
内容:100 人村、アリとキリギリス、違っていて面白い、トンガトン、憲法のはなし、チョコレート
対象:子ども、大人
派遣者:中村絵乃(事務局員)、岩岡由季子(事務局員)、久保井奈美(ボランティア)ほか

43 「中学 3 年グローバルラボ」(2020.1/17／計 2 回)

主催:甲南高等学校・中学校
内容:貿易ゲーム
対象:中学生
派遣者:佐藤友紀(理事)

44 「総合的な学習の時間(国際理解)2 回目」(2020.1/10／計 4 回)

主催:千代田区立九段中等教育学校
内容:パーム油
対象:中学生
派遣者:中村絵乃(事務局員)、伊藤容子(事務局員)、岩岡由季子(事務局員)、大野のどか(ボランティア)

45 「開発教育支援プログラム(JICA 沖縄委託事業)」(2020.1/11／計 2 回)

主催:(特活)沖縄 NGO センター
内容:その他
対象:教員・教育関係者
派遣者:中村絵乃(事務局員)

46 「総合的な学習の時間(国際理解)3 回目」(2020.1/17／計 4 回)

主催:千代田区立九段中等教育学校
内容:パーム油
対象:中学生
派遣者:中村絵乃(事務局員)、八木亜紀子(事業主任)、伊藤容子(事務局員)、大野のどか(ボランティア)

47 「東京武蔵野ロータリークラブ 例会卓話」(2020.2/25／計 1 回)

主催:東京武蔵野ロータリークラブ
内容:SDGs について
対象:ロータリークラブメンバー
派遣者:中村絵乃(事務局員)

48 「龍谷大学短期大学部」(2020.2/10／計 1 回)

主催:龍谷大学
内容:アクティブラーニング
対象:教員・教育関係者
派遣者:岩崎裕保(監事)

49 「中2グローバルラボ」(2020.2/1／計 2 回)

主催:甲南高等学校・中学校
内容:100 人村
対象:中学生
派遣者:佐藤友紀(理事)

50 「聖心グローバルプラザ Be*hive ワークショップ」(2019.5-2020.3／計 31 回)

主催:聖心女子大学グローバル共生研究所
内容:気候変動、難民
対象:大学生、中高生
派遣者:岩岡由季子(事務局員)、八木亜紀子(事業主任)